

今年度の一般建築物部門への応募は昨年と同数の38件であった。

まず、選考の経緯について記しておく。書類審査による一次選考では、あらかじめ応募作品の資格を確認した上で、各作品に対して各審査委員が評価点をつけ集計をした結果の表をもとにして、その合計点の上位の作品から検討していき、合議の上、現地審査の対象となる建築作品を14件に絞り込んだ。建築種別が多様だったこともあり、評価点でボーダーとなった作品が多く、現地審査対象を絞るには例年よりやや時間を要した。

現地審査は8月末に4日間かけておこなわれ、各作品の印象や評価について現地で活発に意見交換された上、視察後の第2次審査会でまとめて意見交換の後、最終的な選考は投票によった。各人の評価点数の合計点を参考にして上位から順に授賞作を選んだ。この結果、最優秀賞1件、優秀賞9件、アピール賞1件となった。

全体的には、今年も小規模な集会所から駅前再開発まで規模も建築種別も多様であったが、書類審査では、ある一定のまとまった機能をもつ建築が対象となったように思う。選ばれた施設の多くは、新規の建築というよりも公共施設などで移転や建て替えなど、地域において一定の役割を果たしてきた経緯の上で、その施設機能が新たな社会ニーズに対応して発展させたもので、このことが求められる時期なのかもしれない。これらは庁舎など日常性・普遍性の求められる中で、多面的な配慮を全体として再構成することのできたものが優れた施設として評価を高く得た。一方で、全く新たな時代に求められる機能に対応する解決策をはじめて解く時の、独創的で優れた技術や豊かな発想力を感じるものがいくつかあり、全体として普遍的なものや先端的なもの2つのグループに分かれていたのが今年度の受賞作品の傾向と言えよう。

最優秀賞となった「**ペプチドリーム本社・研究所**」は、まさに先端の企業によるこれまで前例の無い研究所施設であり、様々な新しい試みがなされているとともに、デザインの質を高く保っている点が評価された。眺望や周辺環境への配慮、日射や換気などの環境管理技術にも優れ、研究所部分と事務スペースの共存のあり方にも提案性が高く、さらにアートの導入も空間的に成功しているなど、総合的に見て秀逸な建築となっている。

つづいて優秀賞の「**川和保育園**」は、保育関係者の間では全国的に有名な存在だが、その移転・新築した施設が今回の対象である。後背の山の斜面や眺望、樹木、既存の古民家などの立地特性を存分に活用し、かつ運営理念や親やスタッフの活動を最大限支える建築として、敷地全体で優れた保育空間を形成している。

「**日野こもれび納骨堂**」は、納骨墓地としての新しい試みで、急増する墓地ニーズへの対応を図る機械式のプログラムを含んだユニークな建築物。その新しい設備技術と社会課題への的確な解決を建築物として実現しており、周辺住宅地の町並みに徹底的にそるえるという形態的な配慮、高さを抑えるための屋根の工夫などが墓地の施設の新しいデザインのあり方を生み出している。

「**洗足学園音楽大学 White Castle**」は、ユニークかつ新しい学科に対応した棟で、大学キャンパスの中で残された敷地という不利な条件を乗り越えて、逆に存在感のあるデザインが実現されている。ダンスの専攻という授業や演習に対応した階高や床の構造など、特殊に要求される環境条件を堅実に提供している建物であると共に、バルコニー、ルーバーの意匠、外観上の工夫などが優れている。

「**アマダ記念会館**」は、企業の敷地内で他の建物とは一線を画したデザインの、迎賓館的な部分と企業展示施設との間に見事な庭園を挟み込んだ、和風デザインにこだわった完成度の高い建築物である。ディテールまで対応した良質な空間づくりに注力しており、シンプルの中にも贅沢を感じさせる和の力強さを実現している。

「**鎌倉市立大船中学校**」は、中学校としての基本性能を余裕を持って盛り込んだ堅実なデザインによる建物であり、教室と廊下との間のオープンな関係性やその中間におかれた展示棚などに工夫が多い。ガラス張りの見通しの良さから来る空間の連続性は、スポーツ施設の開放的利用など地域への連続性にもつながっている。

「**箱根小涌園 天悠**」は、旅館の建て替えであり、客をもてなす空間づくりにデザインの密度が高いだけでなく、軒の出など内外の関係性づくりや、自然の水の流れの復元、景観や眺望の重視など、周辺環境との関連性にも十分に配慮した再整備をおこなっている。時代に応じた新しい観光ニーズに対応するための議論が相当練られた末の建築物であることがわかる。

「**箱根・芦ノ湖 はなをり**」は、同じく箱根の温泉旅館であり、芦ノ湖に面した斜面に豊富な樹木や岩などの自然環境資源を極力尊重し、そのランドスケープとアート作品との融合を建築によってまとめることに成功している。個々の宿泊室なども斜面を活かし棚田型の浴室など工夫に富んだ空間を魅力的に生み出している。

「**川崎市幸区役所**」は、建て替え移転のプロセスに苦心した庁舎建築で、限られた敷地の中での全体の配置、とくに歩行者空間、アプローチの確保など、さらに建設のプロセスでの施工上の工夫などが見られる。パッシブ

な環境技術、受付カウンター自由設定や空間のフレキシビリティの確保など、様々な技術的な工夫に裏付けされた公共建築として多様性、汎用性の高い空間となっている。

「**藤沢市新庁舎**」は、庁舎建築としては規模も大きいですが、技術面では全体的にエコ配慮の環境共生技術が活かされており、機能面でも市民ラウンドは非常に良く使われ親しみやすい市民の居場所として特筆すべき空間となっている。駅からの動線など市民利用を中心に据えた、開放性の高い諸室空間で構成されている。

さらに今回は、アピール賞（環境）を「**駒岡げんきっず保育園**」に授与することとした。これは、うすい屋根や分節された棟による構成など、住宅地としてのスケール感と建築ポキャブラリーにうまく適合させ、多様な空間が視覚的に連続している点も含めて、周辺環境との調和にデザイン面で徹底した建築物となっているところが評価された。